

【樹木・草花の部屋】

ロウバイ（ロウバイ科ロウバイ属 *Chimonanthus praecox*）

和名；ロウバイ(蠟梅) **別名**；カラウメ（唐梅） **英名**；

クスノキ目 落葉低木

原産地；中国 **花言葉**；「先導」「先見」「慈愛」「優しい心」 **花の色**；黄



← 写真－1 ロウバイの花

撮影日：2013年1月19日

撮影場所：奈良市水門町にて

撮影者：Mさん

奈良市内にある依水園からの帰り道、堀越に咲いていたので、パチ。
中国原産の落葉樹で真冬に満開の花を咲かせる数少ない花木の一つ。
1月から2月にかけて黄色い花を付け、花の香りは強い。名前に梅がついているためバラ科サクラ属と誤

解されやすいが、別属。唐の国から来たこともあり唐梅とも呼ばれ、中国名も蠟梅であったことからロウバイに・・・日本には17世紀頃に導入されたと言われています。

写真－2 ソシンロウバイの花

⇒

撮影日：2012年1月6日

撮影場所：広陵町馬見丘陵公園にて

提供：馬見花だより2012年1月号より

中国ではウメ、スイセン、サザンカ、ロウバイを「雪中四友」と言い、冬を美しく彩る庭木として珍重されたと言われています。ソシンロウバイ(素心蠟梅)、

マンゲツロウバイ(満月蠟梅)、トウロ

ウバイ(唐蠟梅)などの栽培品種があり、よく栽培されているのはソシンロウバイだそうで、花全体が黄色。ロウバイの基本種は、花の中心部は暗紫色で、その周囲が黄色。



【樹木・草花の部屋】

<ちょっと一言>

名の由来 ロウバイの名前は花の色が蜜蝋（みつろう）に似ているからとか、花の質感がろう細工のようだからとか諸説があるようです。本草綱目によれば、花卉が蝋のような色であり、且つ臘月（ろうげつ、旧暦 12 月）に咲くからこの名がついたそうです。

学名のキモナンサスはギリシア語で「冬の花」を意味します。

注意点 花やつぼみから抽出した蝋梅油（ろうばいゆ）を薬として使用されているようですが、種子などにアルカロイドであるカリカンチンを含み有毒。中毒すればストリキニーネ様の中毒症状を示す。カリカンチンの致死量はマウス 44mg/kg（静脈注射）、ラット 17mg/kg（静脈注射）である。要注意 !!

品種

- * ロウバイ [Chimonanthus praecox] : 外側の花びらが黄色で、内側の花びらが褐色。
- * ソシンロウバイ [Chimonanthus praecox cv. Concolor] : 通常のロウバイと違い褐色の花びらのない、単色黄色のすっきりした花色。香りがよく普通のロウバイ同様、広く栽培されているそうです。

剪定メモ

自然形は株立。剪定の適期はいずれも落葉後、11 月頃もしくは花後の 3 月頃。

- * 花芽は花後に伸びた枝の短枝に 6~7 月につくられ、翌春に咲きます。しかし、徒長枝や、間延枝にはほとんど花芽を付けずに、枝や幹の基部に付く短い枝に花芽を付ける性質があります。そこで、その年に出た長くのびた枝や間延びした枝を根元から 20cm ほど残して切ると良い。（軽剪定ほど、次の枝は短く、強剪定ほど次の枝は長くなる）
- * 花後の枝は 5~6 芽残して切戻すと、残した枝から伸びた短枝に花芽が着きやすい。

その他

- * 一度植え付けたら移植は困難
- * 植え付けは落葉時期に”